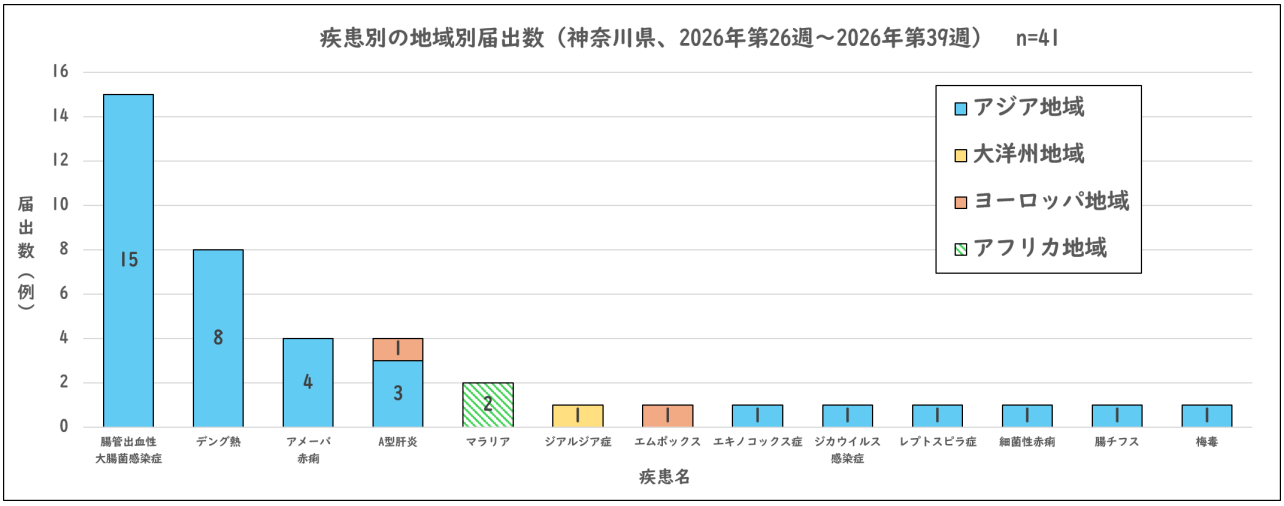
2026 年 11 月 10 日発行

神奈川県における輸入感染症例の動向について

夏季に海外に行かれた方のリスク評価のため、神奈川県において、2026 年第 27 週～第 39 週（7 月～9 月末頃まで）に日本国外での感染が報告された症例の動向※をまとめました。

※発行時点の数値であり、今後更新される可能性があります。



特に多かった 4 疾患について取り上げます。

① 腸管出血性大腸菌感染症（15 例）

大韓民国やベトナム等での感染が報告されました。

感染すると、嘔吐や激しい腹痛と水様便に続く血便が出現します。また、溶血性尿毒症症候群（Hemolytic Uremic Syndrome：HUS）や脳症等の重篤な合併症を伴うことがあります。

予防のために、生肉や加熱不十分の食べ物の喫食は避けましょう。

② デング熱（8 例）

ベトナムやスリランカ等での感染が報告されました。

感染すると、発熱や頭痛、関節痛、発疹等が出現します。重症化すると、出血傾向やショック症状を伴うことがあります。

予防のために、忌避剤の使用など、虫刺されへの対策を行いましょう。

③ アメーバ赤痢（4 例）

インドやベトナム等での感染が報告されました。

感染すると、下痢、腹痛、粘血便等が出現します。また、肝膿瘍を形成した場合、発熱等を起こすことがあります。潜伏期間は、通常 2－3 週間程度ですが、数年にわたることもあります。

予防のために、生水や生の食べ物の喫食は避けましょう。

④ A 型肝炎（4 例）

大韓民国やヨーロッパ等での感染が報告されました。

感染すると、発熱や嘔吐、黄疸等が出現します。潜伏期間が数週間と長く、稀に重症化することがあります。

予防のために、生肉や加熱不十分の食べ物の喫食は避けましょう。ワクチン接種も有効です。

＜参考リンク（2026 年 11 月 10 日アクセス可能）＞

- 厚生労働省検疫所（FORTH）
- 国立健康危機管理研究機構感染症情報提供サイト